

第 13 号議案

連系線の運用容量について

(案)

業務規程第 9 章に定める連系線管理業務の一環として、業務開始初年度における各連系線の長期・年間・月間の各断面毎の休日・平日、昼間・夜間別の運用容量の値を定める。

別紙　：　連系線の運用容量

以　上

(別紙)

連系線の運用容量(長期計画)

(単位：万kW)

地域間連系線名称	潮流向	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	34 年度	35 年度	36 年度
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
	東北向	60(①)	60(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
東北東京間連系線	東北向	65(④)	65(④)	65(④)	65(④)	65(④)	65(④)	65(④)	65(④)
	東京向	500(②)	500(②)	500(②)	500(②)	570(②)	570(②)	570(②)	570(②)
東京中部間連系設備 (新信濃，佐久間， 東清水周波数変換設備)	東京向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)
	中部向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)
中部関西間連系線	中部向	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)
	関西向	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注 1)	北陸向	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)
	関西向	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)
関西中国間連系線	関西向	400(③)	400(③)	400(③)	400(③)	400(③)	400(③)	400(③)	400(③)
	中国向 注 2)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線	中国向	278(①) 【183(④)】	278(①) 【183(④)】	278(①) 【183(④)】	278(①) 【183(④)】	278(①) 【183(④)】	278(①) 【183(④)】	278(①) 【183(④)】	278(①) 【183(④)】
	九州向	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)

【 】内の数字は、最大需要時以外で空容量が小さくなると予想される値を示す。

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。

注 1) 北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注 2) 関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも 1 ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の 1 回線熱容量限度相当で同期安定性、電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

平成27年度の連系線の運用容量(平日:昼間帯)

(単位:万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	—	—	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	—	—	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線 注3)	東北向	—	—	70(④)	70(④)	65(④)	65(④)	65(④)	65(④)	70(④)	75(④)	75(④)	65(④)
	東京向	—	—	300(②) 【305(②)】	305(②)	480(①)	375(①)	360(①) 【390(①)】	375(①) 【305(②)】	340(②)	425(①)	305(②)	325(①)
東京中部間連系設備(新信濃,佐久間,東清水周波数変換設備)	東京向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線	中部向	—	—	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)
	関西向	—	—	159(④)	172(④)	178(④)	156(④)	151(④)	156(④)	180(④)	177(④)	184(④)	161(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	—	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	—	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	—	—	130(④) 【36(④)】	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)
	関西向	—	—	160(②) 【100(④)】	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)
関西中国間連系線	関西向	—	—	380(②)	400(③)	400(③)	380(②) 【329(①)】	380(②) 【278(①)】	380(②)	410(③)	410(③)	410(③)	380(②)
	中国向 注2)	—	—	270(①)	270(①)	270(①)	270(①) 【270(①)】	270(①) 【270(①)】	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	—	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	—	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【50(④)】
	四国向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【24(④)】
中国九州間連系線	中国向	—	—	221(④)	244(④)	254(④)	220(④)	211(④)	219(④)	253(④)	273(④)	268(④)	234(④) 【157(④)】
	九州向	—	—	46(④)	53(④)	54(④)	45(④)	43(④)	44(④)	52(④)	54(④)	53(④)	47(④)

()内の数字は,運用容量決定要因(①熱容量,②同期安定性,③電圧安定性,④周波数維持)を示す。

【 】内の数字は,作業時の運用容量を示す。

注1)北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ,運用容量を算出する。

注2)関西中国間連系線の潮流は,中国向きとなる現実性が低いため,少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性,電圧安定性に問題ないことを確認した。このため,算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3)空容量最小時の運用容量を記載

平成28年度の連系線の運用容量(平日:昼間帯)

(単位: 万 kW)

地域間連系線名称	潮流向	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
北海道本州間連系設備	北海道向	60 (①)	60 (①) 【0 (①)】	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①) 【30 (①)】	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)
	東北向	60 (①)	60 (①) 【0 (①)】	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①) 【30 (①)】	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)
東北東京間連系線 注 3)	東北向	70 (④)	65 (④)	70 (④)	70 (④)	65 (④)	65 (④)	65 (④)	70 (④) 【235 (①)】	70 (④)	80 (④)	80 (④)	65 (④)
	東京向	355 (①) 【355 (①)】	345 (①)	350 (①)	430 (①)	430 (②)	465 (①) 【430 (②)】	— 【330 (②)】	515 (①) 【235 (①)】	480 (①)	400 (②)	440 (②)	420 (②)
東京中部間連系設備(新信濃, 佐久間, 東清水周波数変換設備)	東京向	120 (①) 【90 (①)】	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①) 【90 (①)】	120 (①) 【90 (①)】	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①) 【90 (①)】
	中部向	120 (①) 【90 (①)】	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①) 【90 (①)】	120 (①) 【90 (①)】	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①) 【90 (①)】
中部関西間連系線	中部向	250 (④)	250 (④)	250 (④)	250 (④)	250 (④)	250 (④)	250 (④)	250 (④)	250 (④)	250 (④)	250 (④)	250 (④)
	関西向	120 (④)	120 (④)	120 (④)	120 (④)	120 (④)	120 (④)	120 (④)	120 (④)	120 (④)	120 (④)	120 (④)	120 (④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①) 【0 (①)】	30 (①) 【0 (①)】	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)
	中部向	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①) 【0 (①)】	30 (①) 【0 (①)】	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)
北陸関西間連系線 注 1)	北陸向	130 (④)	130 (④) 【35 (④)】	130 (④) 【36 (④)】	130 (④)	130 (④)	130 (④)	130 (④)	130 (④)	130 (④)	130 (④)	130 (④)	130 (④)
	関西向	160 (②)	160 (②) 【100 (④)】	160 (②) 【100 (④)】	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)
関西中国間連系線	関西向	380 (②)	380 (②) 【278 (①)】	380 (②) 【278 (①)】	400 (③)	400 (③)	380 (②) 【278 (①)】	380 (②)	380 (②) 【329 (①)】	410 (③)	410 (③)	410 (③)	380 (②)
	中国向 注 2)	270 (①)	270 (①) 【270 (①)】	270 (①) 【270 (①)】	270 (①)	270 (①)	270 (①) 【270 (①)】	270 (①)	270 (①) 【270 (①)】	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)
関西四国間連系線	関西向	140 (①) 【70 (①)】	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①) 【70 (①)】	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①) 【70 (①)】
	四国向	140 (①) 【70 (①)】	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①) 【70 (①)】	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①) 【70 (①)】
中国四国間連系線	中国向	120 (①) 【50 (④)】	— 【50 (④)】	120 (①) 【50 (④)】	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)
	四国向	120 (①) 【24 (④)】	— 【24 (④)】	120 (①) 【24 (④)】	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)
中国九州間連系線	中国向	— 【157 (④)】	213 (④) 【157 (④)】	222 (④)	246 (④)	256 (④)	221 (④)	212 (④)	220 (④)	254 (④)	274 (④)	269 (④)	235 (④)
	九州向	30 (④)	30 (④)	30 (④)	30 (④)	30 (④)	30 (④)	30 (④)	30 (④)	30 (④)	30 (④)	30 (④)	30 (④)

() 内の数字は, 運用容量決定要因 (①熱容量, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。

【 】 内の数字は, 作業時の運用容量を示す。

注 1) 北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ, 運用容量を算出する。

注 2) 関西中国間連系線の潮流は, 中国向きとなる現実性が低いため, 少なくとも 1 ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の 1 回線熱容量限度相当で同期安定性, 電圧安定性に問題ないことを確認した。このため, 算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注 3) 空容量最小時の運用容量を記載

平成27年度の連系線の運用容量(平日:夜間帯)

(単位:万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	—	—	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	—	—	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線 注3)	東北向	—	—	60(④)	60(④)	55(④)	55(④)	55(④)	60(④)	65(④)	70(④)	75(④)	60(④)
	東京向	—	—	365(①) 【370(②)】	435(①)	455(①)	335(①)	320(①) 【335(①)】	340(①) 【310(②)】	311(①)	400(①)	410(①)	335(①)
東京中部間連系設備(新信濃,佐久間,東清水周波数変換設備)	東京向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線	中部向	—	—	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	—	—	132(④)	142(④)	147(④)	131(④)	123(④)	131(④)	155(④)	139(④)	158(④)	139(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	—	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	—	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	—	—	60(④) 【32(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	—	—	160(②) 【100(④)】	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)
関西中国間連系線	関西向	—	—	380(②)	400(③)	400(③)	380(②)	380(②)	380(②)	410(③)	410(③)	410(③)	380(②)
	中国向 注2)	—	—	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	—	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	—	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【50(④)】
	四国向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【23(④)】
中国九州間連系線	中国向	—	—	203(④)	221(④)	230(④)	206(④)	198(④)	204(④)	236(④)	245(④)	246(④)	221(④) 【157(④)】
	九州向	—	—	43(④)	46(④)	49(④)	43(④)	41(④)	42(④)	51(④)	51(④)	50(④)	44(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量,②同期安定性,③電圧安定性,④周波数維持)を示す。

【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1)北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注2)関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性,電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3)空容量最小時の運用容量を記載

平成28年度の連系線の運用容量(平日:夜間帯)

(単位:万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線 注3)	東北向	65(④)	55(④)	60(④)	60(④)	55(④)	55(④)	55(④)	60(④) 【235(①)】	70(④)	75(④)	75(④)	65(④)
	東京向	355(①) 【335(①)】	365(①)	345(①)	380(①)	440(②)	440(①) 【395(②)】	— 【330(②)】	500(①) 【235(①)】	420(①)	455(①)	435(②)	390(②)
東京中部間連系設備(新信濃,佐久間,東清水周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	60(④)	60(④) 【32(④)】	60(④) 【32(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	160(②)	160(②) 【100(④)】	160(②) 【100(④)】	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)
関西中国間連系線	関西向	380(②)	380(②) 【278(①)】	380(②) 【278(①)】	400(③)	400(③)	380(②)	380(②)	380(②) 【329(①)】	410(③)	410(③)	410(③)	380(②)
	中国向 注2)	270(①)	270(①) 【270(①)】	270(①) 【270(①)】	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①) 【270(①)】	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【50(④)】	— 【50(④)】	120(①) 【50(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【23(④)】	— 【23(④)】	120(①) 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線	中国向	— 【157(④)】	201(④) 【157(④)】	204(④)	223(④)	232(④)	207(④)	199(④)	206(④)	237(④)	247(④)	247(④)	223(④)
	九州向	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)

()内の数字は,運用容量決定要因(①熱容量,②同期安定性,③電圧安定性,④周波数維持)を示す。

【 】内の数字は,作業時の運用容量を示す。

注1)北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ,運用容量を算出する。

注2)関西中国間連系線の潮流は,中国向きとなる現実性が低いため,少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性,電圧安定性に問題ないことを確認した。このため,算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3)空容量最小時の運用容量を記載

平成27年度の連系線の運用容量(休日:昼間帯)

(単位:万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	—	—	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	—	—	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線 注3)	東北向	—	—	60(④)	65(④)	60(④)	60(④)	55(④)	60(④)	65(④)	60(④)	70(④)	65(④)
	東京向	—	—	300(②)	305(②)	480(①)	375(①)	355(①) 【400(①)】	375(①) 【305(②)】	340(②)	380(①)	305(②)	325(①)
東京中部間連系設備(新信濃,佐久間,東清水周波数変換設備)	東京向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線	中部向	—	—	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	—	—	143(④)	163(④)	167(④)	140(④)	135(④)	141(④)	136(④)	136(④)	166(④)	152(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	—	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	—	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	—	—	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	—	—	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)
関西中国間連系線	関西向	—	—	380(②)	400(③)	400(③)	380(②) 【329(①)】	380(②)	380(②)	410(③)	410(③)	410(③)	380(②)
	中国向 注2)	—	—	270(①)	270(①)	270(①)	270(①) 【270(①)】	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	—	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	—	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【50(④)】
	四国向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【23(④)】
中国九州間連系線	中国向	—	—	194(④)	226(④)	228(④)	207(④)	187(④)	193(④)	227(④)	247(④)	248(④)	216(④) 【157(④)】
	九州向	—	—	43(④)	51(④)	52(④)	44(④)	40(④)	42(④)	50(④)	52(④)	51(④)	45(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量,②同期安定性,③電圧安定性,④周波数維持)を示す。

【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1)北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注2)関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性、電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3)空容量最小時の運用容量を記載

平成28年度の連系線の運用容量(休日:昼間帯)

(単位:万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線 注3)	東北向	60(④)	55(④)	60(④)	65(④)	60(④)	60(④)	55(④)	60(④) 【235(①)】	65(④)	60(④)	75(④)	65(④)
	東京向	355(①)	335(①)	350(①)	430(①)	430(②)	475(①) 【430(②)】	— 【330(②)】	515(①) 【235(①)】	480(①)	400(②)	475(②)	420(②)
東京中部間連系設備(新信濃,佐久間,東清水周波数変換設備)	東京向	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①) 【82(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線	中部向	200(④) 【25(④)】	200(④) 【16(④)】	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	120(④) 【35(④)】	120(④) 【31(④)】	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	60(④)	60(④) 【31(④)】	60(④) 【32(④)】	60(④)	60(④)	60(④) 【33(④)】	60(④)	60(④) 【32(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	160(②)	160(②) 【100(④)】	160(②) 【100(④)】	160(②)	160(②)	160(②) 【100(④)】	160(②)	160(②) 【100(④)】	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)
関西中国間連系線	関西向	380(②)	380(②) 【278(①)】	380(②) 【278(①)】	400(③)	400(③)	380(②) 【278(①)】	380(②)	380(②) 【329(①)】	410(③)	410(③)	410(③)	380(②)
	中国向注2)	270(①)	270(①) 【270(①)】	270(①) 【270(①)】	270(①)	270(①)	270(①) 【270(①)】	270(①)	270(①) 【270(①)】	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【50(④)】	— 【50(④)】	120(①) 【50(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【50(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【22(④)】	— 【22(④)】	120(①) 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線	中国向	— 【157(④)】	191(④) 【157(④)】	195(④)	227(④)	230(④)	208(④)	188(④)	194(④)	229(④)	249(④)	250(④)	217(④)
	九州向	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量,②同期安定性,③電圧安定性,④周波数維持)を示す。

【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1)北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注2)関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性、電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3)空容量最小時の運用容量を記載

平成27年度の連系線の運用容量(休日:夜間帯)

(単位:万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	—	—	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	—	—	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線 注3)	東北向	—	—	55(④)	55(④)	50(④)	55(④)	55(④)	55(④)	65(④)	60(④)	70(④)	60(④)
	東京向	—	—	345(①)	435(①)	455(①)	335(①)	310(①) 【335(①)】	340(①) 【310(②)】	310(①)	330(①)	410(①)	345(①)
東京中部間連系設備(新信濃,佐久間,東清水周波数変換設備)	東京向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線	中部向	—	—	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	—	—	132(④)	142(④)	147(④)	131(④)	123(④)	131(④)	139(④)	139(④)	158(④)	139(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	—	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	—	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	—	—	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	—	—	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)
関西中国間連系線	関西向	—	—	380(②)	400(③)	400(③)	380(②)	380(②)	380(②)	410(③)	410(③)	410(③)	380(②)
	中国向 注2)	—	—	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	—	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	—	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【50(④)】
	四国向	—	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【22(④)】
中国九州間連系線	中国向	—	—	189(④)	205(④)	210(④)	195(④)	182(④)	187(④)	217(④)	225(④)	229(④)	207(④) 【157(④)】
	九州向	—	—	41(④)	46(④)	48(④)	41(④)	39(④)	40(④)	49(④)	51(④)	49(④)	44(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量,②同期安定性,③電圧安定性,④周波数維持)を示す。

【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1)北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注2)関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性、電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3)空容量最小時の運用容量を記載

平成28年度の連系線の運用容量(休日:夜間帯)

(単位:万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線 注3)	東北向	55(④)	50(④)	55(④)	60(④)	50(④)	55(④)	55(④)	60(④) 【235(①)】	65(④)	60(④)	70(④)	60(④)
	東京向	335(①)	365(①)	345(①)	380(①)	440(①)	485(①) 【395(②)】	— 【330(②)】	500(①) 【235(①)】	420(①)	455(①)	435(②)	390(②)
東京中部間連系設備(新信濃,佐久間,東清水周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①) 【82(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線	中部向	200(④) 【22(④)】	200(④) 【12(④)】	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	120(④) 【30(④)】	120(④) 【26(④)】	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)	120(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	60(④)	60(④) 【31(④)】	60(④) 【32(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④) 【32(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	160(②)	160(②) 【100(④)】	160(②) 【100(④)】	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②) 【100(④)】	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)
関西中国間連系線	関西向	380(②)	380(②) 【278(①)】	380(②) 【278(①)】	400(③)	400(③)	380(②)	380(②)	380(②) 【329(①)】	410(③)	410(③)	410(③)	380(②)
	中国向注2)	270(①)	270(①) 【270(①)】	270(①) 【270(①)】	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①) 【270(①)】	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【50(④)】	— 【50(④)】	120(①) 【50(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【22(④)】	— 【22(④)】	120(①) 【22(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線	中国向	— 【157(④)】	185(④) 【157(④)】	190(④)	207(④)	211(④)	196(④)	183(④)	188(④)	218(④)	226(④)	231(④)	208(④)
	九州向	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)	30(④)

()内の数字は,運用容量決定要因(①熱容量,②同期安定性,③電圧安定性,④周波数維持)を示す。

注1)北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ,運用容量を算出する。

注2)関西中国間連系線の潮流は,中国向きとなる現実性が低いため,少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性,電圧安定性に問題ないことを確認した。このため,算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3)空容量最小時の運用容量を記載

連系線の運用容量(月間計画:平日、昼間帯)

(単位：万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4 月			5 月					
		第 3 週	第 4 週	第 5 週	第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週	第 6 週
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①)	60(①)	—	60(①)	60(①)	【30(①)】	【0(①)】	—
	東北向	60(①)	60(①)	60(①)	—	60(①)	60(①)	【30(①)】	【0(①)】	—
東北東京間連系線 注 3)	東北向	70(④)	70(④)	70(④)	—	65(④)	65(④)	65(④)	65(④)	—
	東京向	390(②)	425(②)	【415(②)】	—	390(②)	435(②)	375(②)	350(②)	—
東京中部間連系設備(新信濃、佐久間、東清水周波数変換設備)	東京向	【90(①)】	120(①)	【60(③)】	—	【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	—
	中部向	【90(①)】	120(①)	120(①)	—	【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	—
中部関西間連系線	中部向	250(④)	250(④)	250(④)	—	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	—
	関西向	158(④)	158(④)	158(④)	—	153(④)	153(④)	153(④)	153(④)	—
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	—
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	—
北陸関西間連系線 注 1)	北陸向	130(④)	130(④)	130(④)	—	【35(④)】	【36(④)】	【36(④)】	【36(④)】	—
	関西向	160(②)	160(②)	160(②)	—	【100(④)】	【100(④)】	【100(④)】	【100(④)】	—
関西中国間連系線	関西向	380(②)	380(②)	380(②)	—	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	—
	中国向 注 2)	270(①)	270(①)	270(①)	—	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	—
関西四国間連系線	関西向	140(①)	140(①) 【70(①)】	【70(①)】	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	—
	四国向	140(①)	140(①) 【70(①)】	【70(①)】	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	—
中国四国間連系線	中国向	【80(④)】	120(①) 【80(④)】	120(①)	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	—
	四国向	【24(④)】	120(①) 【24(④)】	120(①)	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	—
中国九州間連系線	中国向	219(④)	【101(④)】	【158(④)】	—	【159(④)】	【159(④)】	【159(④)】	【159(④)】	—
	九州向	44(④)	44(④)	44(④)	—	43(④)	43(④)	43(④)	43(④)	—

() 内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注 1) 北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注 2) 関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも 1 ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の 1 回線熱容量限度相当で同期安定性、電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注 3) 空容量最小時の運用容量を記載

連系線の運用容量(月間計画:平日、夜間帯)

(単位：万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4月			5月					
		第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①)	60(①)	—	60(①)	60(①)	【30(①)】	【0(①)】	—
	東北向	60(①)	60(①)	60(①)	—	60(①)	60(①)	【30(①)】	【0(①)】	—
東北東京間連系線 注3)	東北向	65(④)	65(④)	65(④)	—	55(④)	55(④)	55(④)	55(④)	—
	東京向	395(②)	425(②)	【400(②)】	—	385(②)	435(②)	375(②)	315(②)	—
東京中部間連系設備(新信濃、佐久間、東清水周波数変換設備)	東京向	— 【90(①)】	120(①)	— 【60(③)】	—	— 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	—
	中部向	— 【90(①)】	120(①)	120(①)	—	— 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	—
中部関西間連系線	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	—	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	—
	関西向	134(④)	134(④)	134(④)	—	127(④)	127(④)	127(④)	127(④)	—
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	—
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	—	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	—
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	60(④)	60(④)	60(④)	—	— 【32(④)】	— 【32(④)】	— 【32(④)】	— 【32(④)】	—
	関西向	160(②)	160(②)	160(②)	—	— 【100(④)】	— 【100(④)】	— 【100(④)】	— 【100(④)】	—
関西中国間連系線	関西向	380(②)	380(②)	380(②)	—	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	—
	中国向 注2)	270(①)	270(①)	270(①)	—	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	—
関西四国間連系線	関西向	140(①)	140(①) 【70(①)】	— 【70(①)】	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	—
	四国向	140(①)	140(①) 【70(①)】	— 【70(①)】	—	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	—
中国四国間連系線	中国向	— 【80(④)】	120(①) 【80(④)】	120(①)	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	—
	四国向	— 【23(④)】	120(①) 【23(④)】	120(①)	—	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	—
中国九州間連系線	中国向	209(④)	— 【101(④)】	— 【158(④)】	—	— 【159(④)】	— 【159(④)】	— 【159(④)】	— 【159(④)】	—
	九州向	42(④)	42(④)	42(④)	—	41(④)	41(④)	41(④)	41(④)	—

() 内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】 内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1) 北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注2) 関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性、電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3) 空容量最小時の運用容量を記載

連系線の運用容量(月間計画:休日、昼間帯)

(単位：万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4月			5月					
		第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	― 【30(①)】	― 【30(①)】	60(①) 【0(①)】
	東北向	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	― 【30(①)】	― 【30(①)】	60(①) 【0(①)】
東北東京間連系線 注3)	東北向	60(④)	60(④)	60(④)	55(④)	55(④)	55(④)	55(④)	55(④)	55(④)
	東京向	425(②)	425(②)	420(②) 【395(②)】	405(②)	360(②)	455(②)	345(②)	380(②)	450(②)
東京中部間連系設備(新信濃、佐久間、東清水周波数変換設備)	東京向	― 【90(①)】	― 【90(①)】	120(①) 【60(③)】	― 【60(③)】	― 【60(③)】	― 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
	中部向	― 【90(①)】	― 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	― 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
中部関西間連系線	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	― 【16(④)】	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	140(④)	140(④)	140(④)	― 【31(④)】	131(④)	135(④)	135(④)	135(④)	135(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	60(④)	― 【33(④)】	60(④)	60(④)	― 【31(④)】	― 【32(④)】	― 【32(④)】	― 【32(④)】	― 【32(④)】
	関西向	160(②)	― 【100(④)】	160(②)	160(②)	― 【100(④)】	― 【100(④)】	― 【100(④)】	― 【100(④)】	― 【100(④)】
関西中国間連系線	関西向	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)
	中国向 注2)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	140(①)	140(①)	― 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	― 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	― 【80(④)】	― 【80(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	― 【23(④)】	― 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線	中国向	195(④)	195(④) 【101(④)】	― 【101(④)】	― 【159(④)】	― 【159(④)】	― 【159(④)】	― 【159(④)】	― 【159(④)】	― 【159(④)】
	九州向	42(④)	42(④)	42(④)	41(④)	41(④)	41(④)	41(④)	41(④)	41(④)

() 内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】 内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1) 北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注2) 関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性、電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3) 空容量最小時の運用容量を記載

連系線の運用容量(月間計画:休日、夜間帯)

(単位：万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4月			5月					
		第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	― 【30(①)】	― 【30(①)】	60(①) 【0(①)】
	東北向	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	― 【30(①)】	― 【30(①)】	60(①) 【0(①)】
東北東京間連系線 注3)	東北向	55(④)	55(④)	55(④)	50(④)	50(④)	50(④)	50(④)	50(④)	50(④)
	東京向	425(②)	425(②)	425(②) 【380(②)】	410(②)	370(②)	450(②)	345(②)	380(②)	445(②)
東京中部間連系設備(新信濃、佐久間、東清水周波数変換設備)	東京向	― 【90(①)】	― 【90(①)】	120(①) 【60(③)】	― 【60(③)】	― 【60(③)】	― 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
	中部向	― 【90(①)】	― 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	― 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
中部関西間連系線	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	134(④)	134(④)	134(④)	127(④)	122(④)	127(④)	127(④)	127(④)	127(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	60(④)	― 【33(④)】	60(④)	60(④)	― 【31(④)】	― 【32(④)】	― 【32(④)】	― 【32(④)】	― 【32(④)】
	関西向	160(②)	― 【100(④)】	160(②)	160(②)	― 【100(④)】	― 【100(④)】	― 【100(④)】	― 【100(④)】	― 【100(④)】
関西中国間連系線	関西向	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)
	中国向 注2)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	140(①)	140(①)	― 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	― 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	― 【80(④)】	― 【80(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	― 【22(④)】	― 【22(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線	中国向	191(④)	191(④) 【101(④)】	― 【101(④)】	― 【159(④)】	― 【159(④)】	― 【159(④)】	― 【159(④)】	― 【159(④)】	― 【159(④)】
	九州向	40(④)	40(④)	40(④)	39(④)	39(④)	39(④)	39(④)	39(④)	39(④)

() 内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】 内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1) 北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注2) 関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性、電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3) 空容量最小時の運用容量を記載

平成27年度の連系線の運用容量(休日:夜間帯)

(単位:万kW)

地域間連系線名称	潮流向	4/1			4/2			4/3			4/4			4/5		
		0～8	8～22	22～24	0～8	8～22	22～24	0～8	8～22	22～24	0～8	8～22	22～24	0～8	8～22	22～24
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	70(④)	75(④)	70(④)	70(④)	75(④)	70(④)	70(④)	75(④)	70(④)	60(④)	65(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	東京向	405(②)	415(②)	405(②)	405(②)	415(②)	405(②)	300(②)	310(②)	300(②)	300(②)	310(②)	300(②)	300(②)	310(②)	300(②)
東京中部間連系設備(新信濃, 佐久間, 東清水周波数変換設備)	東京向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) (5:30～90(①))	90(①)	90(①)	90(①)	90(①) (17:30～120(①))	120(①)
	中部向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) (5:30～90(①))	90(①)	90(①)	90(①)	90(①) (17:30～120(①))	120(①)
中部関西間連系線	中部向	200(④)	250(④)	200(④)	200(④)	250(④)	200(④)	200(④)	250(④)	200(④)	200(④)	250(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向 注3)	149(④)	180(④)	158(④)	149(④)	180(④)	158(④)	149(④)	180(④)	158(④)	134(④)	141(④)	140(④)	134(④)	141(④)	140(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	60(④)	130(④)	60(④)	60(④)	130(④)	60(④)	60(④)	130(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)	160(②)
関西中国間連系線	関西向	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)	380(②)
	中国向 注2)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)	270(①)
関西四国間連系線	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線 注3)	中国向	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)	80(④)
	四国向	23(④)	27(④)	24(④)	23(④)	27(④)	24(④)	23(④)	27(④)	24(④)	22(④)	23(④)	23(④)	22(④)	23(④)	23(④)
中国九州間連系線 注3)	中国向	209(④)	250(④)	219(④)	209(④)	250(④)	219(④)	209(④)	250(④)	219(④)	191(④)	205(④)	195(④)	191(④)	205(④)	195(④)
	九州向	42(④)	49(④)	44(④)	42(④)	49(④)	44(④)	42(④)	49(④)	44(④)	40(④)	44(④)	42(④)	40(④)	44(④)	42(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持)を示す。

注1) 北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注2) 関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性、電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではない。

注3) 時間帯の区分は、0～8、8～20、20～24とする。

地域間連系線名称	潮流向	4 / 6			4/7			4/8			4/9			4/10		
		0～8	8～22	22～24	0～8	8～22	22～24	0～8	8～22	22～24	0～8	8～22	22～24	0～8	8～22	22～24
北海道本州間連系設備	北海道向	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)
	東北向	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)	60 (①)
東北東京間連系線	東北向	60 (④)	65 (④)	60 (④)	65 (④)	70 (④)	65 (④)	65 (④)	70 (④)	65 (④)	65 (④)	70 (④)	65 (④)	65 (④)	70 (④)	65 (④)
	東京向	300 (②)	265 (②)	270 (②)	270 (②)	265 (②)	270 (②)	270 (②)	265 (②) (11:00～370 (②))	375 (②)	375 (②)	370 (②)	375 (②)	395 (②)	390 (②) (17:30～425 (②))	425 (②)
東京中部間連系設備(新信濃, 佐久間, 東清水周波数変換設備)	東京向	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)
	中部向	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	120 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)	90 (①)
中部関西間連系線	中部向	200 (④)	250 (④)	200 (④)	200 (④)	250 (④)	200 (④)	200 (④)	250 (④)	200 (④)	200 (④)	250 (④)	200 (④)	200 (④)	250 (④)	200 (④)
	関西向 注3)	134 (④)	180 (④)	158 (④)	149 (④)	180 (④)	158 (④)	149 (④)	180 (④)	158 (④)	149 (④)	180 (④)	158 (④)	149 (④)	180 (④)	158 (④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)
	中部向	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)	30 (①)
北陸関西間連系線 注1)	北陸向	60 (④)	130 (④)	60 (④)	60 (④)	130 (④)	60 (④)	60 (④)	130 (④)	60 (④)	60 (④)	130 (④)	60 (④)	60 (④)	130 (④)	60 (④)
	関西向	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)	160 (②)
関西中国間連系線	関西向	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)	380 (②)
	中国向 注2)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)	270 (①)
関西四国間連系線	関西向	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)
	四国向	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)	140 (①)
中国四国間連系線 注3)	中国向	80 (④)	80 (④) (17:00～120 (①))	120 (①)	120 (①)	80 (④)	80 (④)	80 (④)	80 (④)	80 (④)	80 (④)	80 (④)	80 (④)	80 (④)	80 (④)	80 (④)
	四国向	23 (④)	27 (④) (17:00～120 (①))	120 (①)	120 (①)	27 (④)	24 (④)	23 (④)	27 (④)	24 (④)	23 (④)	27 (④)	24 (④)	23 (④)	27 (④)	24 (④)
中国九州間連系線 注3)	中国向	191 (④)	250 (④)	219 (④)	209 (④)	250 (④)	219 (④)	209 (④)	250 (④)	219 (④)	209 (④)	250 (④)	219 (④)	209 (④)	250 (④)	219 (④)
	九州向	40 (④)	49 (④)	44 (④)	42 (④)	49 (④)	44 (④)	42 (④)	49 (④)	44 (④)	42 (④)	49 (④)	44 (④)	42 (④)	49 (④)	44 (④)

() 内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。

注1) 北陸関西間連系線等の故障時に中部北陸間連系設備に流れている潮流が北陸関西間連系線に回り込むことを考慮のうえ、運用容量を算出する。

注2) 関西中国間連系線の潮流は、中国向きとなる現実性が低いため、少なくとも1ルートの熱容量が最も小さい西播東岡山線の1回線熱容量限度相当で同期安定性、電圧安定性に問題ないことを確認した。このため、算出した運用容量は技術的限度を示したものではな

注3) 時間帯の区分は、0～8、8～22、22～24 とする。